

今後の植生モニタリング調査について

■ 植生モニタリング調査の概要

大台ヶ原の森林生態系保全再生では、平成 14 年（2002 年）～平成 15 年（2003 年）に実施した植生調査を基に、森林の上層の相観植生と下層植生（ササの種類と密度、コケの密度）に着目して代表的な森林生態系を示す 7 つの植生タイプを抽出し、事業を展開している。

第 1 期計画では、それぞれの植生タイプごとに適切な保全再生手法を検討するためのモニタリング調査及び実証実験を実施した。

第 2 期計画では、第 1 期計画の結果を踏まえ、新たな中期目標・短期目標の設定を行い、それに基づく具体的取組と、その評価のための調査を行っている。また、具体的取組と調査項目の対応については、別添資料のとおりである。

第1期計画から第2期計画までの目標と具体的取組項目の関係図

【第1期計画】

中期目標:常に多くの実生が生育する環境を整える。

短期目標:当面は実証実験により実生の生育環境を明らかにする。

植生タイプ別調査
大台ヶ原を7つの植生タイプに区分し、現況把握を実施した。

実証実験
7つの植生タイプごとに問題点を抽出し、実証実験（地表処理）を実施した。

【第2期計画】

7つの植生タイプにはあてはまらない箇所への対応が必要。

静的にとらえていては対応できない動的な変化をしている箇所への対応が必要。
(森林後退が進んでいる箇所など)

実証実験を評価し、植生タイプごとに具体的な再生手法を検討する。

中期目標

①大台ヶ原を特徴づける森林生態系の保全

②森林の更新環境の回復

③森林後退の抑制

④ミヤコザサ草地から森林への遷移

短期目標

①

- ・ 緊急に保全が必要な箇所における対策の強化**(a)**

②

- ・ 過剰な動物の影響や菌害の抑制による実生の成長促進**(b)**
- ・ 林床のミヤコザサの抑制**(c)**
- ・ 実生の定着環境等森林更新に必要な適性な林床環境の明確化**(d)**

③

- ・ 森林後退の場所における樹木減少の抑制**(e)**
- ・ 森林後退の場所における森林更新の場の保全**(f)**
- ・ 森林後退の場所における森林更新の場の創出**(g)**

④

- ・ 森林への遷移に誘導するための手法の検討**(h)**

具体的取組の例

①

(a)

- ・ 防鹿柵（小規模防鹿柵を含む）の設置

②

(b)

- ・ 防鹿柵（小規模防鹿柵を含む）の設置

(c)

- ・ 機械刈りによる大規模なササ刈りの実施

(d)

- ・ 実生の生育基質に関する評価の実施

③

(e)

- ・ 母樹への剥皮防止用ネットの設置（トウヒ・ウラジロモミ等）

- ・ 防鹿柵の設置

(f)

- ・ 防鹿柵外に自生するトウヒ・ウラジロモミ等の実生・稚樹の周囲に簡易柵を設置

(g)

- ・ 苗木植栽試験の実施

④

(h)

- ・ 全ての森林更新過程が損なわれた箇所（ミヤコザサ型植生）において、森林への遷移の誘導をはかるためにコアとなる母樹群の形成を促すための試験的な植栽の実施

※その他

◎西大台利用調整地区に関する調査

◎ニホンジカに関する調査

◎大台ヶ原全体の変化調査

■ 植生モニタリング調査の見直しについて

全調査項目について、以下の手順に基づき、整理を行った。

①分類

→短期目標別に具体的取組、必須調査および追加的調査に分類し、追加的調査については優先順位を設定

②調査規模の見直し

→調査方法・頻度等について再検討を行うとともに、評価に必要なデータが収集出来た調査については次年度取りまとめを行って終了

以上の整理の結果を参考資料に示す。昨年度の計画から変更予定の部分については赤字で示す。次年度以降の調査については、予算等についても勘案した上で、この結果に基づき調査項目を決定することとする。